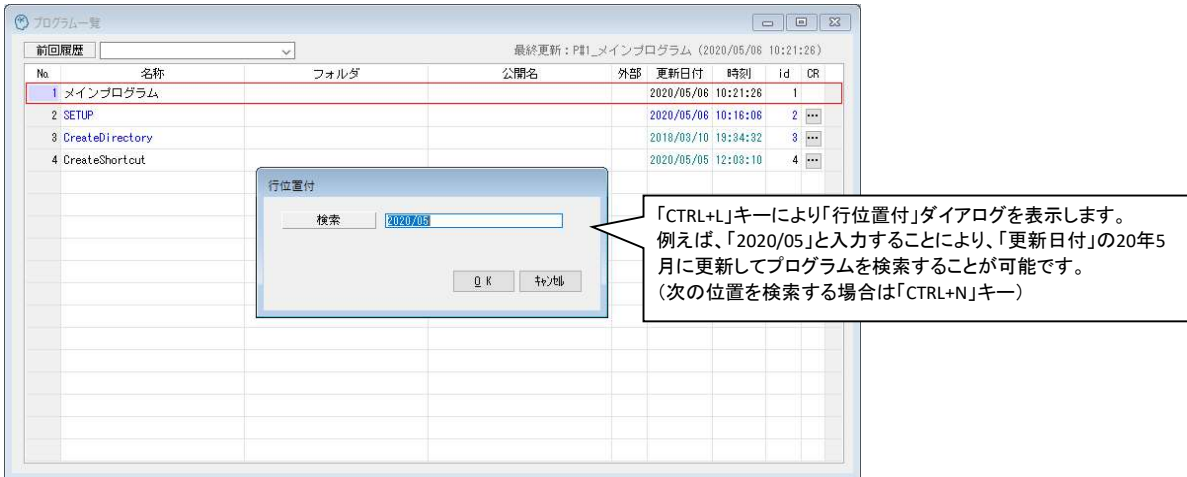


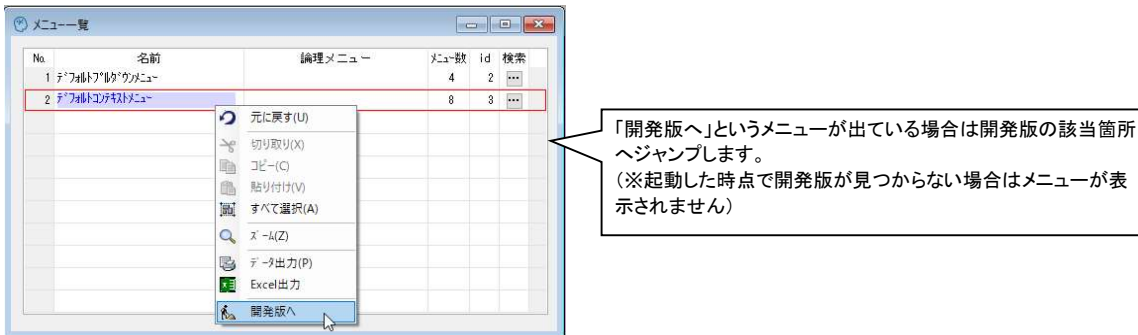
## Ver0.99新機能の紹介

### ① 行位置付検索機能を改善(SQLデータベース利用時)

従来は名称のみの検索でしたが、任意の項目に対してテキスト検索ができるようになりました。  
従来のモデル、データ、プログラムに加え、ヘルプ、権利、メニュー、コンポーネント、コンポーネントオブジェクトに対しても検索が可能です。

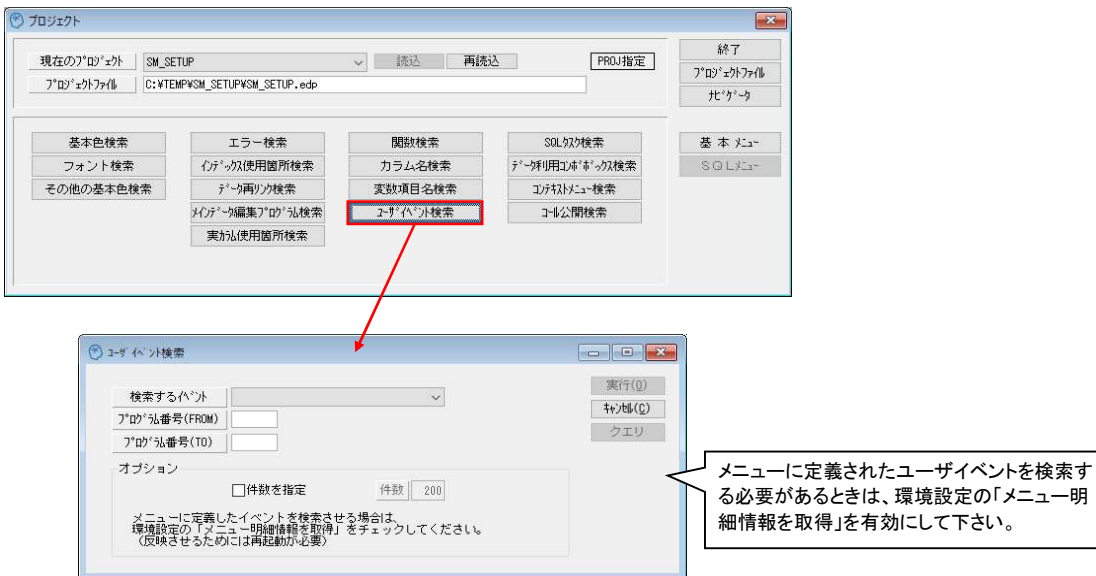


### ② コンテキストメニューに「開発版へ」が表示されていても実行できない箇所の改善を行いました。(メニュー、ヘルプ、権利、その他)



### ③ SQLメニューに「ユーザーイベント検索」機能を追加しました。

メインプログラム登録したユーザーイベントの検索が可能です。



- ④ SQLメニューに「コール公開検索」機能を追加しました。  
プログラム中のコール（公開名、COM、式、OSコマンド、リモート、UDP、Webサービス）定義箇所を検索することが可能です。



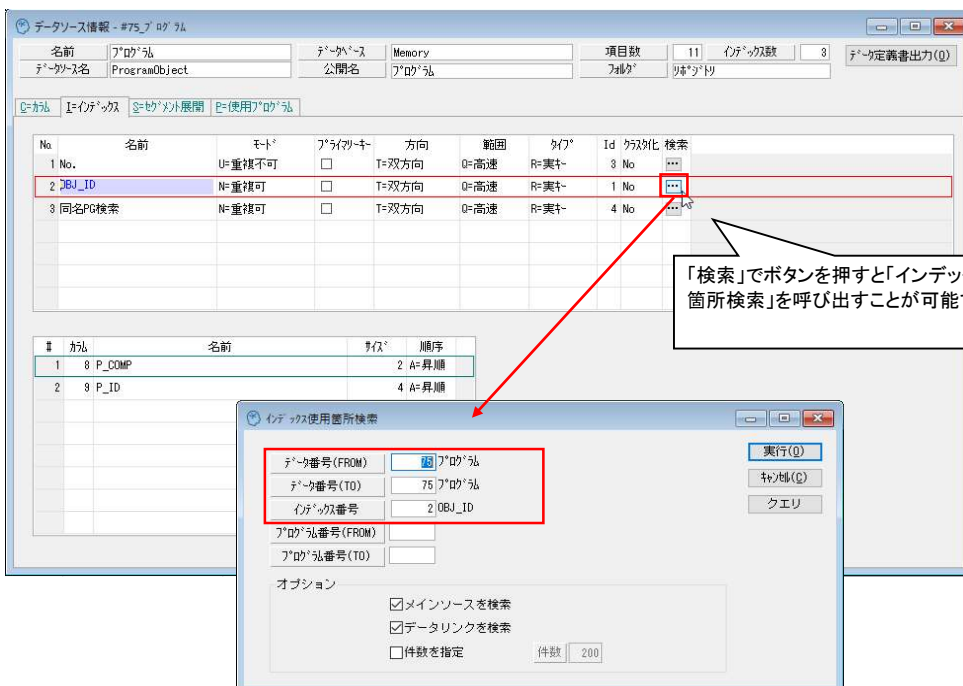
検索するタイプは複数選択が可能です。

- ⑤ ロジック表示画面の関数名から関数検索をコールできるようにしました。（SQLデータベース利用時、メインプログラムのみ）



関数名で「F5」キーを押すと「関数検索」を呼び出すことが可能です。

- ⑥ データのインデックス一覧画面からインデックス使用箇所検索をコールできるようにしました。（SQLデータベース利用時）

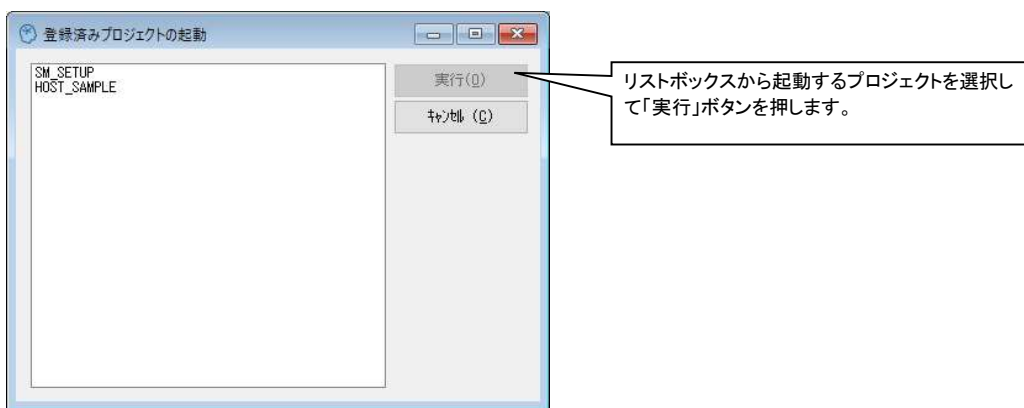
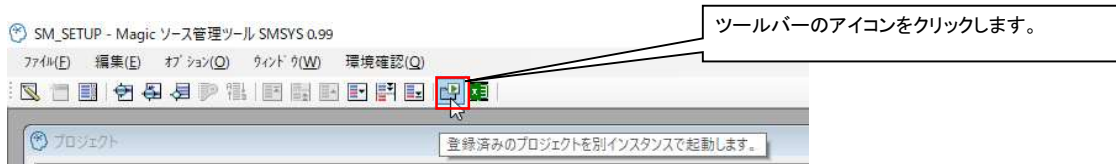


「検索」でボタンを押すと「インデックス使用箇所検索」を呼び出すことが可能です。

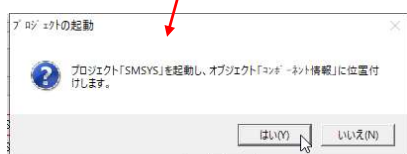
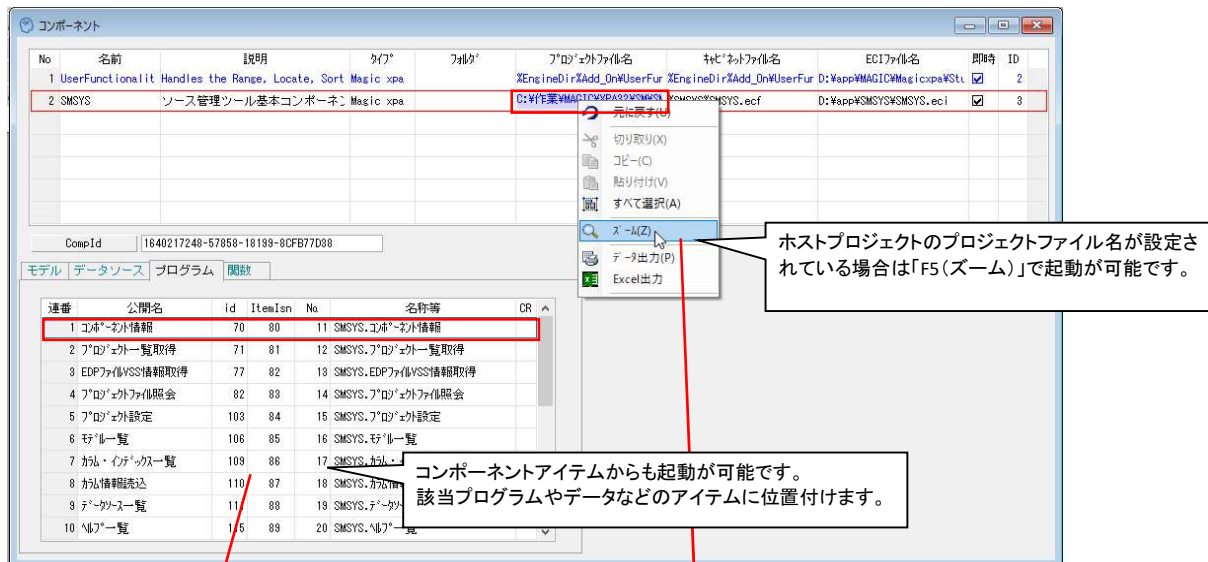
⑦ 新しいインスタンスで登録済みのプロジェクトを開く(当アプリを起動する)機能を追加しました。

起動時のパラメータで環境値をセットします。これによりDBMS環境を再設定することなく起動することが可能です。  
また、コンポーネント画面(「プロジェクトファイル名」項目)、コンポーネント明細オブジェクト表示画面からホストプロジェクトを起動する機能を追加しました。

イ) メニューから「登録済みプロジェクトの起動」を呼び出し直接指定

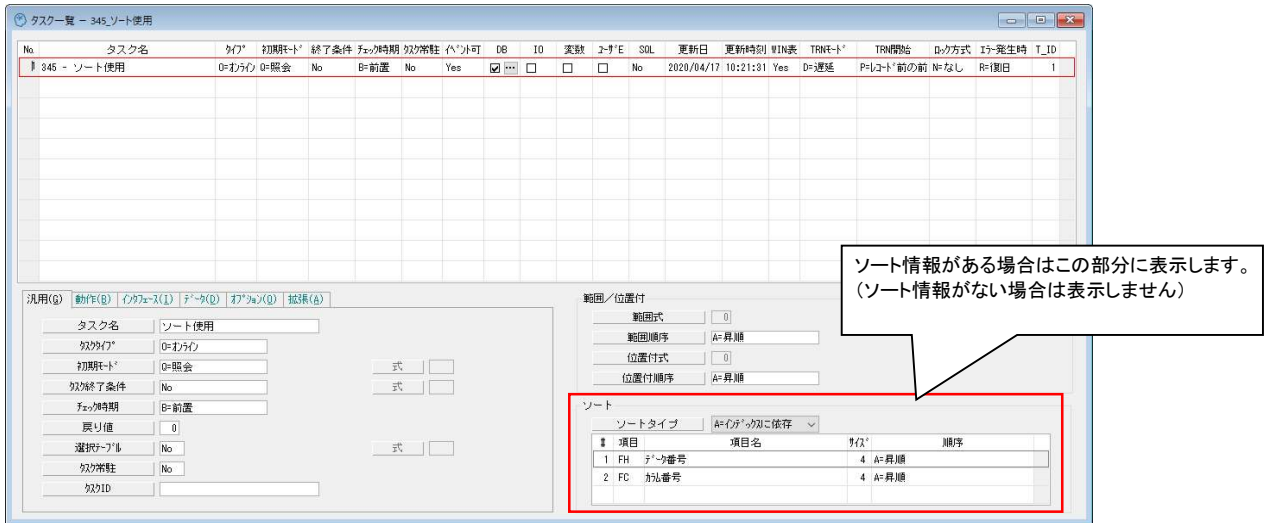


ロ) コンポーネントのホストプロジェクトを指定



※ 起動確認のメッセージボックスは表示を省略することが可能です。  
(「環境設定」→「動作条件」→「プロジェクト起動時の確認ダイアログを省略する」)

⑧ プログラムで設定されたソートの情報を取得・表示できるように改善しました。



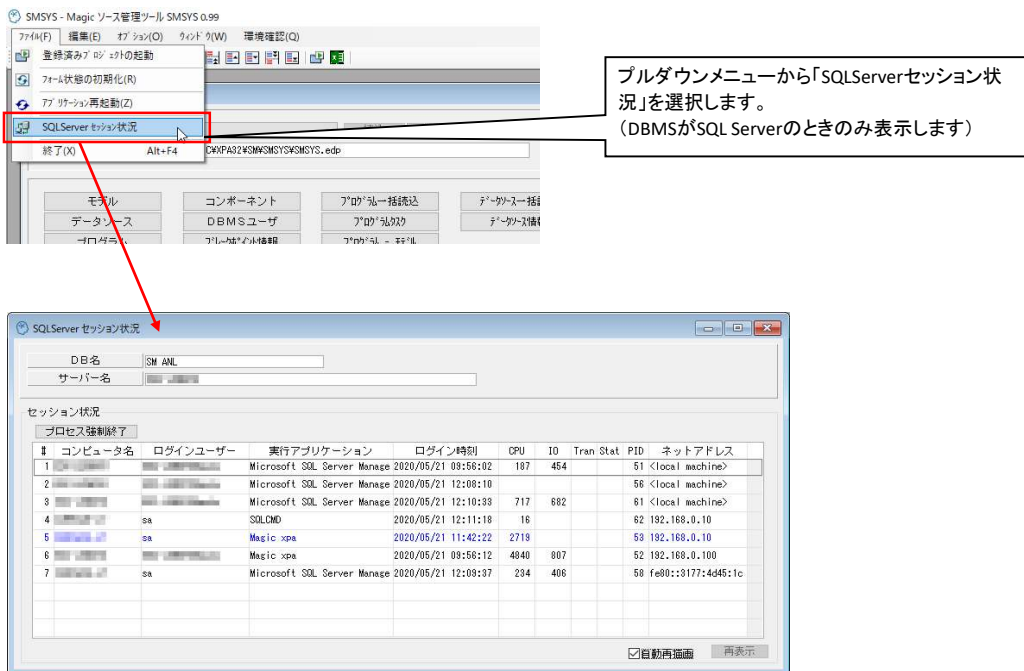
⑨ SQLServerをDBMSに設定時、プログラム解析処理の排他制御やセッション状況表示等の機能を追加しました。

イ) 排他制御

解析処理中は、プログラム単位にロックします。  
 他のユーザによりロックを検出した場合は解析処理をスキップします。  
 解析済みの内容を表示する分にはロックされません。  
 データソースも同様にデータ単位に排他制御します。

ロ) セッション状況

アクセス中のDBに接続しているセッションの状況を確認することが可能です。



<データ共有時の注意>

長時間のロックを避けるため、解析処理は環境条件(CPU、メモリ、ネットワーク速度等)の良い端末で行ってください。